

創業120周年の企業紹介



取締役副社長 菊山 征二氏

菊山鋼材(株)

創業 ● 1894(明治27)年5月1日

所在地 ● 津市野崎垣内岩田363

電話番号 ● 059-228-0341

代表者 ● 代表取締役 菊山 三千郎

事業内容 ● 建設資材販売及び施工
(鉄筋・サッシ・建築金物・板金)



これまでのあゆみ

伊賀から津へ

祖父菊山弥三郎は1872年(明治5年)伊賀 荒木村のごく普通の農家の長男として生まれました。

四方を山に囲まれた平和でのどかな伊賀の盆地は毎朝東方の青山高原の山脈から上る朝日に照らし出されます。その山脈の向こうには広く青い海と豊稔の地 津や松阪があると父から聞き少年の心はいつしかそこで活動している自分の姿を夢見ていました。

ある日、父から1台の荷車を譲り受けた時、胸の高鳴りを抑えながらついに夢が実現出来そうな喜びをかみしめました。近隣の農家で芋、大根、ネギ等の山の幸をいっぱい積み込んで長野峠を越えて津の街でさばき、その足で阿

漕浦へ行き煮干し、コンブ、海苔等の海の幸を買って再び峠を越えて伊賀の農家を1軒1軒訪ねて行商を続けました。

命を賭しての長野峠越え

伊賀と津での行商は苦労の連続でした。

あの急峻な曲りくねった登り坂を荷台いっぱい積んだ車を引く事は並大抵ではなかったのです。それ以上に苦労したのは深夜峠の頂上で強盗に会いお金や荷物はおろか命までも取られそうになり何度も何度も懇願して少年であるがゆえに見逃してもらった事が度々あったと後年語ってくれました。

それでもひたすら行商を続けられたのは津で商売をしたいが為でした。

今、時折所用で車に乗ってスイスイと長野峠を越える度当時の祖父の苦労が偲ばれてつい手を拝ませたくありません。

念願の銀行口座開設

行商して5年後1894年(明治27年)5月1日念願であった百五さんとの口座開設が実現しその日が記念すべき創業日です。祖父は22才でした。

新町通りに開店した店は鍋、釜の日用品や醤油、砂糖、塩が並んだ雑貨店でしたが戦後は波板、釘、針金から鉄筋、サッシ、現場金物、板金等の建設資材へと移行し現在に至っています。

東北大震災で福島第一原発へ

震災直後、東京のゼネコンから福島原発の汚染水処理槽が不足して困っているので大至急鉄筋工20名を2ヵ月間派遣してほしいとの緊急要請が入りました。急遽、北海道と大阪の職人を編成して当社の常務の陣頭指揮のもと防護服を着用し放射能や作業時間の制約を受けながら無事完工し責任を果たしました。

県外進出と大型物件受注

その後長野県、佐久JA総合病院、東京、東大和市の総合文化センター、大阪と奈良のショッピングセンター、県立福井病院、滋賀の老健施設等を手掛けさせてもらっています。



岡三証券 津支店



百五銀行 本部棟と本店棟(建物外観図)



津市新斎場(建物外観図)

又県内では岡三証券津支店が9月、東芝四日市工場が12月に完成し、続いて百五銀行本部棟、本店棟、津市新斎場も決定しました。

社訓と家訓

最近いろいろな方からどうしたら120年も続けられるのか、どうしたら兄弟で仲良く商売が出来るのかと質問を受けます。それはただ「社訓」と「家訓」を抵抗なく忠実に守っているだけの事です。

社訓とは「縁を大切に」、家訓は「兄弟仲良く」です。

2代目は父 三郎とその兄 弥太郎、3代目は長男 三千郎(社長76歳)と私征二(副社長70才)、4代目長男 祐介(専務48才)・弟 浩介(常務42才)、5代目長男 大誠(15才)・弟 太陽(9才)です。

菊山家は兄弟二人でやっと一人前なんです。

夢は創業150周年

あと30年もすれば私は100才になり、会社は150周年です。4代目が安定した経営をして5代目にバトンタッチをしてくれると目標の150周年が迎えられるます。

なんとか石にかじりついてでも長生きをして記念すべき日を一緒にお祝いしたいものです。

その時は祖父の墓前に「社訓」と「家訓」を守って今日の日を迎える事が出来たと報告します。